



## 十五夜お月さま。

「十五夜」とは一般的に旧暦の8月15日の夜、そしてその時に見える月のことを意味します。月の満ち欠けのサイクルはおよそ1ヶ月ですので、毎月のように「十五夜」はあるわけですが、我々が思い浮かべるのは、やはり「仲秋の名月」でしょう。



今年の「仲秋の名月」は9月29日です。その日には、「お月見団子」や「季節の野菜」をお供えて、「すすき」を飾ります。団子は十五夜にちなんで、下から9個、4個、2個のピラミッド型に並べ、野菜は「さといも」や「さつまいも」を飾ることが多いようです。そして、すすきには「神様をお招きするため」や「魔除け」の意味があるとされています。今年の十五夜(仲秋の名月)は金曜日。たまにはのんびりと、「お月見」をしてみたいですね。

出典：日本文化研究ブログ

「Eco列車でいこう！」～第167回～ 「遠野」。もう一つの物語。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



今春、大学を卒業した息子は「地域おこし協力隊」として岩手県三陸地方の釜石市役所に勤務している。就職先を決める際、「人のためになることが出来ればいいな。」と語った時は、とてもうれしかった。

チューリップの花が終わりを迎える頃、新潟駅で「Kamaishi Line」というパンフレットを手に入れた。「釜石線」は花巻と釜石を結ぶローカル線だが、その中の「遠野市」の記述について興味を沸かした。

岩手県遠野市。人口は25,000人。柳田国男の「遠野物語」で知られる民話の里で、日本の原風景が広がっている。そしてもう一つの顔が、ビールの原料となる「ホップ」の一大産地なのだという。ぜひ行ってみたいと思った。

8月19日(土)。仙台で前泊し、「一ノ関」と「花巻」で鈍行を乗り継いで遠野に到着した。駅前では「カッパ」のオブジェクトがお出迎え。さすがに民話の里だ。駅近くで行われる「遠野ホップ収穫祭」へ向かう。遠野におけるホップ栽培の歴史は古く、およそ60年前には「麒麟ビール」と提携を結んでいる。新潟で飲まれている「一番搾り」のホップは、遠野で栽培されているとのことだ。

4ヶ月ぶりとなる息子と再会した。釜石の市場で購入したイカやホタテの刺身を持ってきてくれた。その心遣いがうれしいし、社会人としての成長を感じる。テントの外には麒麟ビールや地ビール、地元食材の屋台が並び、蒸し暑い夏の日、新鮮な刺身をつまみにビールがドンドン進んだ。

15時から「サンプラザ中野くん」と「パッパラー河合」によるスペシャルライブ。「Runner」「リゾ・ラバ」「大きな玉ねぎの下で」などヒット曲のメドレーで、会場は大いに盛り上がった。

「ホップの町に大勢の人が集い、生産者とふれあい、おいしいビールを味わう。」なんて贅沢な時間なのだろう。

ホームで列車を待つと夕立が降り始めた。「ひどく暑かった日の夕立」である。「まさにRunnerの歌詞のとおりだね。」2人で笑いながら、たった1両のディーゼルカーに乗り込んだ。



ビールを飲みながらのライブは最高



収穫祭は4年ぶりの開催



緑が鮮やかな 摘みたてホップ